Bスポット療法

BスポットのBとは、鼻咽腔（びいんくう）のBです。東京医科歯科大学名誉教授の堀口申作先生が命名しました。

Bスポット療法とは鼻の後ろの上咽頭という部位に塩化亜鉛を染み込ませた綿棒を擦り付ける治療法です。

古くから慢性上咽頭炎により、自律神経系・免疫系の不具合を来し、様々な症状を引き起こすことが知られていました。この上咽頭炎は肉眼では分からず、塩化亜鉛を塗布した綿棒の擦過により疼痛と出血があることが、炎症を有する所見であると堀口教授は述べています。

 Bスポット療法は原因不明の頭痛やめまいに一部の医師の間で行われていました。1960～70年代に一時注目されましたが、色々な理由（痛みを伴う、儲からないなど）で施行する医師が少なくなってしまったという歴史があります。

2015年12月に発売された堀田修先生、相田能輝先生の著書「道なき道の先を診る　慢性上咽頭炎の再興が日本の医療を変える（医薬経済社）」の中で、HPVワクチン副反応により不登校や体を動かせなくなった女性に対し、Bスポット療法を複数回行い著明に改善したという記述があります。

HPVワクチン副反応で苦しむ患者さんのほぼ全員が、上咽頭炎を有していたそうです。

Bスポット療法の対象疾患は頭痛、めまい、全身倦怠感、喉がつかえるような違和感、後鼻漏など多岐に亘ります。さらに同書にはBスポット療法による効果を期待しうる疾患として、めまい・花粉症・アレルギー性鼻炎・慢性疲労症候群なども挙げられています。

 現代における原因不明で治療困難な疾患の一部が、この治療法に反応があり改善の見込みがあると述べられています。

 塩化亜鉛が鼻や上咽頭の粘膜に染み込む際に強い痛みを生じます。炎症が良くなってくると痛みが少なくなります。

ご希望の方は、外科外来に受診してください。